

# 豊田市公共交通会議（愛知県豊田市）



1市4町2村の合併により成立した広大な中核市において、鉄道・基幹バス、そして住民が運営に参画した「地域バス」による多核ネットワークの構築、多様な利用促進策及び生産性・持続可能性の向上策を展開し、地域交通を活性化。

## （取組の概要）

### 1. 多様な主体の実質的参画

- 鉄道・基幹バス・地域バスを組み合わせ、広大な市域を効率的にカバー
- 「鉄道」は、「愛知環状鉄道の複線化」などを実施し、通勤需要に対応、車通勤の減少
- 「バス」は、中核的拠点を結ぶ「基幹バス」とエリアを担う「地域バス」に分類
- 「基幹バス」は市と事業者とが緊密に連携し、計画に基づいた運行・改善を実施（改善例：コミュニティバスでの交通系共通ICカードの導入 等）
- 「地域バス」は、地域住民、商工会、病院、学校などが参加する「運営協議会」の議論に基づき運行、改善を実施。

### 2. 創意工夫

#### (1) 企業と連携した通勤輸送の公共交通利用（鉄道）への転換

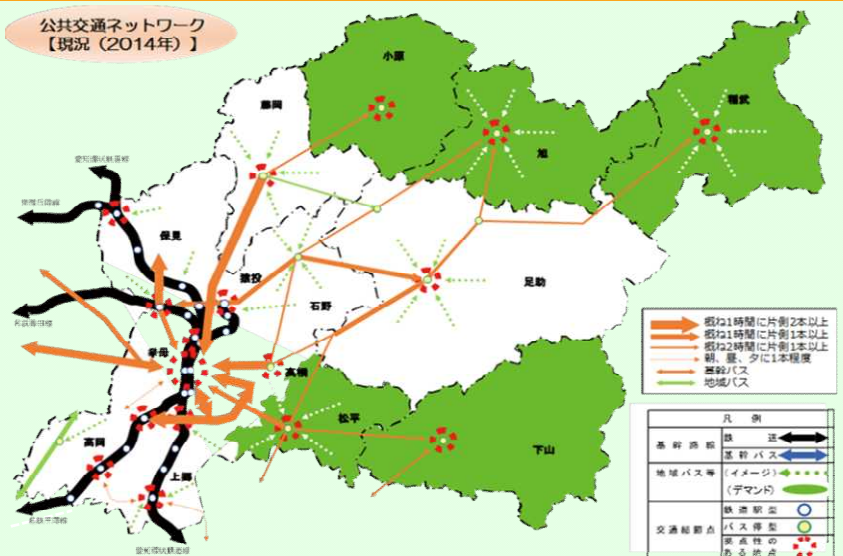
- 渋滞対策等の観点から、地元大手企業と連携した公共交通利用促進を実施
- 愛知環状鉄道の複線化、パークアンドバスライド駐車場の整備などの施策を展開

#### (2) バス利用促進策の展開

- 鉄道・事業者バス・コミュニティバスを一元的に集約した移動支援サイト・アプリ、「みちなびとよた」を整備し、利便性を向上
- 事業者委託ではないコミュニティバス（基幹バス）では全国でも例の少ない交通系共通ICカードの導入
- 商工会との連携によるバス利用時の買い物で運賃をキャッシュバック

### 3. 自立性・継続性

- 収支率等の定量的な指標と運営協議会の取組を評価する独自のバス評価システムを導入し、「基幹バス」「地域バス」のサービス水準の見直しに活用・運営協議会の活動を活性化。
- コミュニティバスでは全国初の宅配物の貨客混載を実施。生産性向上による自立的経営を目指す。



「鉄道」「基幹バス」「地域バス」で広大な市域をカバー



地域バスだより



地域バス運営協議会にて検討

